

## 「データプロジェクト」 製品分類別基準 (PCR 番号:AG-04)

注)この基準はエコリーフプログラム実施用に作成されたものです。事務局の承諾無く、本内容を他の目的に使用することを禁止致します。

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
1	PCR 設定の前提	製品	定義	コンピューター入力端子を持つ拡大投影機で、画像変換ユニットが「透過型液晶デバイス方式」及び「反射型デバイス方式」等の固定解像度方式ライトバルブ方式のものを対象とする。
2			範囲	付属品は次の範囲とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンピューター接続ケーブル、電源用ケーブル、リモコン、電池等全ての同梱品</li> <li>・ 全ての包装材(汎用的に繰り返して使用されるものは除く)</li> <li>・ 紙または CD-ROM などのマニュアル類。</li> </ul>
3		ステージ	範囲	全ライフサイクルステージ(本プログラムで規定する PEIDS に掲げるすべてのステージ； 製造、物流、使用、廃棄・リサイクル)を対象とする。
4	製品データシート(LCI 入力データ)	製造ステージ情報 (製品情報)	製品材料 または 原料構成	1)資源投入量は、製品となった段階の材料質量とし、製品質量の90%以上の材料を種類別に分類、残りは比例配分し100%換算する。  2)製品データシートに記載する材料名は、普通鋼、SUS、アルミニウム、その他金属、熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂、ゴム、ガラス、紙、半導体基板、木材の11項目とする。この11項目以外のものは原単位名を記載する。  3)オープンリサイクル/リユース オープンリサイクル/リユースを含む場合は次の項目に注意して各社で妥当と判断されるシナリオを設定して計上できる。なお設定根拠の妥当性は検証の対象となる。 (1)「間接影響」範囲とする工程 (2)「間接影響」範囲内の控除・負荷
5		製造ステージ情報 (製造サイト情報)	投入・消費・ 排出される 物質とエネ ルギ	1)投入・消費項目： 電力、A 重油、軽油、灯油、ガソリン、LNG(都市ガス)、LPG、都市用水、工業用水、地下水  2)排出項目： 特定せず。但し、各社で重要と判断したものを記載する。  3)副産物、副資材は計上しない。 製造サイトで投入されるもので、製品と共に出荷されない資材を副資材と定義する。

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
6		物流ステーション情報	製品の輸送条件	<p>1) ユーザーまでの輸送手段、積載率は、申請各社が設定するモデルに基づくこととする。</p> <p>2) 国内輸送距離は、500Kmとして算定する。海外生産を含む場合は海外陸上輸送負荷および海上輸送負荷を国内輸送負荷に加算して計上する。海外輸送条件は各社の実態で設定できる。</p> <p>3) 本体の包装の廃棄・リサイクルは、No.8の「廃棄・リサイクル」に入れる。</p>
7		使用ステーション情報	製品の使用条件	<p>使用条件 1日あたり3.5時間、年間100日で、5年間の使用とする。 公表されている最大輝度で測定すること。</p>

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
8		廃棄・リサイクルステータス情報	製品の廃棄・リサイクル条件	<p>1) シナリオの設定 別紙「使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ」を採用する。 1. 回収ルートは、各社で輸送を含むシナリオを設定。 ・ リユースシナリオ ・ リサイクルシナリオ 材料別リサイクル率(= <math>\eta</math>)は、各社で設定する ・ 非リユース/非リサイクルの産廃処理シナリオ 2. 非回収ルートは、「一廃処理シナリオ」(別紙参照)を採用。</p> <p>2) 控除のシナリオ 別紙「使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ」を採用する。</p> <p>3) リサイクル、リユース可能性の判定基準 判定基準は各社で、個別に定める。</p> <p>4) 製品回収率 製品回収率は、<math>\eta_2 = 1\%</math>とする。 又は、各社の実績値 <math>\eta_1</math> でも良い。</p> <p>5) 製品のリユースの場合 各社の設計値に基づき、使用期間5年間を過ぎてリユースする回数 <math>N_1</math> を設定する。 <math>N_1</math> は整数とする。 また負荷の計算は、上記を使って、 部品リユースの控除量 = “各社の設計時点で計画したリユース可能量” × “製品回収率 <math>\eta_2</math> (又は <math>\eta_1</math>)” × “リユース控除率 (<math>N_1 / N_1 + 1</math>)”</p> <p>6) 消耗品や交換部品の場合 対象品の寿命の中でのリユース回数を <math>N_2</math>、5年間での使用個数を <math>n</math> とし、端数は切り上げて整数とする。 また負荷の計算は、上記 <math>N_2</math> 及び <math>n</math> を使って、 部品負荷 = “部品1個の製造までの負荷” × “5年間での使用個数 (<math>n</math>)” 部品リユースの控除量 = “各社の設計時点で計画したリユース可能量” × “部品回収率 (又は)” × “リユース控除率 <math>N_2 / (N_2 + 1)</math>” × “5年間での使用個数 (<math>n</math>)”</p> <p>7) リサイクル、リユースされずに廃棄される製品又は部品の処理負荷の具体的計上方法 別紙「使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ」を採用する。</p> <p>8) リサイクル、リユースされずに廃棄される製品又は部品の処理負荷の具体的計上方法 別紙「使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ」を採用する。輸送負荷計上については距離を 60km、輸送手段を 4tトラック、積載率を 62%とする。 参考資料: 積載率: 経済産業省告示第66号の別表第3 輸送距離: 「プラスチック廃棄物の処理・処分に関する LCA 調査研究報告書」2001年3月 (社)プラスチック処理促進協会</p> <p>9) オープンリサイクル/リユース オープンリサイクル/リユースを含む場合は次の項目に注意して各社で妥当と判断されるシナリオを設定して計上できる。なお設定根拠の妥当性は検証の対象となる。 (1) 「間接影響」範囲とする工程 (2) 「間接影響」範囲内の控除・負荷</p>

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
9	製品環境情報開示シート(PEIDS)	インベントリ分析	LCI 計算式	1) オープンリサイクル/リユースを含む場合は間接影響と直接影響に分離して計算し、このうち間接影響分を「リサイクル効果」として表現する。PEIDS では間接影響の合計を「リサイクル効果」欄に記載し、リサイクル効果の内訳を PEIDS の解説欄に記載する。
10		インパクト評価	カテゴリ追加	PEIDS には「オゾン層破壊」と「富栄養化」と「光化学オキシダント」の項目を含めない。
11	内訳データシート(製品)	データ加工	アロケーション	統一せず、各社で適宜決定する。
12	データシート(製品関連)	データ収集	収集範囲	データを把握できない場合は、設計時又は計画時の条件を含むデータ(含む原単位)で代用しても良い。
13			カットオフルール	組立負荷等についてカットオフを適用する場合は、その旨を明記し、かつその理由を明確にする。
14	内訳データシート(PEIDS 関連)	データベース	原単位データベースの選定	各社が決めた購入部品については、「部品組立」を採用。 光学部品のコーティングは「部品組立」の原単位を用いる。 蛍石やサファイヤはガラスとして取り扱う。 ランプの定義: ランプとはリフレクター体型ランプとする。 ランプ=「ガラス」+「ガラス成形加工」+「部品組立」・・・「部品組立」(コーティング加工)は全ランプ質量に対して計算 デバイスは「半導体パッケージ」とする(素材、加工含める) その他の基板については、トランス、ヒートシンク、コネクタ等を除き「実装回路基板」として計算し、除いたトランス、ヒートシンク、コネクタ等は個別に原単位を用いて計算する。 モータは「中型モータ」を採用する。
15			原単位データベースの追加	追加はなし。
16			特性化係数の追加	なし
17	製品環境情報	製品仕様		1.方式 (LCP・DLPなど) 2.最大輝度(ANSI ルーメン) 3.画素数

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
18		データ公開 内容		1.記載項目 必須項目として規定(ガイドライン)されている、「温暖化負荷、酸性化負荷、エネルギー消費量」を記載することとし、選択項目の7項目(ガイドライン)は記載自由とする。 2.対象ライフサイクルステージ 記載自由とする。 3.使用条件の設定 使用期間(○年間)、使用時間(○時間)を記載する。 4.表現方法 文章、表、グラフいずれの選択も自由とする。 オープンリサイクル/リユースを含む場合は <ul style="list-style-type: none"> <li>・「リサイクル効果」は実際に発生した負荷とは統合せずに、独立してステージ毎に点線で表示する。</li> <li>・リサイクル効果の内訳は欄外に記載する。</li> </ul>
19	その他環境 関連情報	選択記載項 目		下記のを記載できる。 1. タイプⅠおよび/又はタイプⅢの環境ラベル 2. ISO14001 認証の取得 3. 国または工業会等の認証・認定・表彰 4. 有害物質 (何を有害物質とするかは各社の判断とする)

#### PCRレビューの実施

レビュー実施日(制定)	2002/8/29
有効期限	2014/1/31
エコリーフ審議委員会	代表:内山 洋司 所属:筑波大学大学院

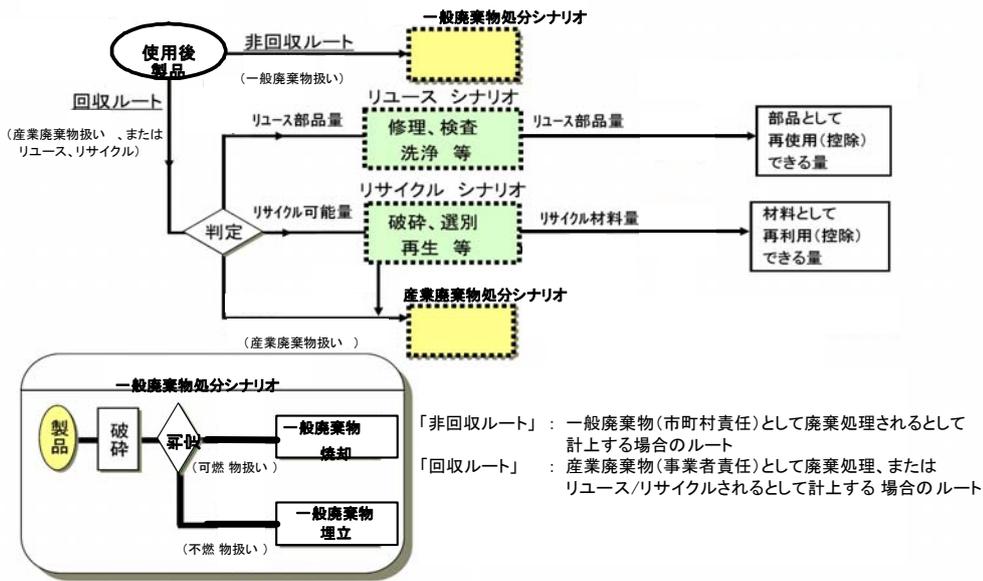
#### 本 PCR の改訂等履歴

実施日	訂番	実施内容
2002/8/29	01	制定
2004/3/1	02	改訂
2004/9/29	03	改訂
2008/1/1	04	改訂
2011/2/1		更新



# 使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ

訂 01 2004.03.01



## 製品分類別基準(PCR)制定規程(R-06)の改訂による PCR項目順の変更について

2008年5月1日の規程改訂により、製品分類別基準(PCR)の項目の順番が変更された。本PCRは規定改訂前に制定されたものであるため、以前の項目の順番としている。以下に、規程改訂前後のPCR項目の対応関係を示す。

### <規定改定前のPCR項目>

### <規定改定後のPCR項目>

No.	規定改定前のPCR項目		No.	規定改定後のPCR項目	関連様式
				【LCA調査の範囲の設定とラベル開示の内容】	
1	製品の定義	→	1	製品の定義	-
2	製品構成要素と評価単位	→	2	製品構成要素と評価単位	-
3	製品ライフサイクルステージ	→	3	製品ライフサイクルステージ	-
		}	4	製品の仕様	PEAD
			5	LCAデータの公開内容	PEAD
			6	新旧製品比較	PEAD
			7	その他エコデザイン関連情報	PEAD
				【システム領域およびデータ収集条件の設定】	
4	原料・部品の構成	→	8	製品の原料・部品構成	内訳DS(製品)、PDS
5	製造ステージにおけるデータ収集条件	→	9	製品製造ステージにおけるモデル化・データ区分等	内訳DS(製造サイト)、PDS
6	物流ステージにおけるデータ収集条件	→	10	物流ステージにおけるモデル化・データ区分等	内訳DS(物流)、PDS
7	使用ステージにおけるデータ収集条件	→	11	使用ステージにおけるモデル化・データ区分等	内訳DS(使用)、PDS
8	廃棄・リサイクルステージにおけるデータ収集条件	→	12	廃棄・リサイクルステージにおけるモデル化・データ区分等	内訳DS(廃棄・リサイクル)、PDS
9	LCI FGD/BGD データ収集/処理	}	13	カットオフルール	内訳DS(各ステージ)、PDS
10	LCIA インパクトカテゴリ		14	収集データの品質要件	内訳DS(各ステージ)、PDS
			15	収集データのアロケーション	内訳DS(各ステージ)、PDS
11	アロケーション	}		【インベントリ計算】	
12	データ収集範囲		16	LCI 計算の考え方	内訳DS(各ステージ)、PEIDS
13	カットオフルール		17	LCI 共通原単位の使用条件	内訳DS(各ステージ)、PEIDS
14	LCI BGD 近似代替	→		【ライフサイクル影響評価(特性化)】	
15	LCI BGD PCR原単位	→	18	LCIA インパクトカテゴリおよび特性化係数の追加	内訳DS(各ステージ)、PEIDS
16	LCIA BGD 特性化係数の追加	→			
17	製品の仕様	}			
18	LCAデータの公開内容				
19	その他環境関連情報				